

2024年6月28日 全7頁

Indicators Update

2024年5月鉱工業生産

工場稼働再開で自動車工業が上昇に転じ、生産指数は2カ月ぶり上昇

経済調査部 研究員 石川 清香

[要約]

- 2024年5月の生産指数は前月比+2.8%と、2カ月ぶりに上昇した。自動車工業が工場稼働再開の影響で上昇に転じ、全体を押し上げた。電気・情報通信機械工業でも、自動車用電気照明器具などの自動車関連品目が押し上げ要因となった。経済産業省は基調判断を「一進一退ながら弱含み」に据え置いた。
- 先行きの生産指数は非常に緩やかな上昇基調を辿るとみている。生産体制の正常化で自動車の挽回生産が見込まれるが、認証不正問題などの影響が完全に剥落するまでは緩やかなペースにとどまるだろう。また、シリコンサイクル（世界半導体市場に見られる循環）の回復局面入りで、半導体関連財の生産も増加するとみられる。ただし、輸出管理規制の強化によって、中国での半導体関連財の販売額が落ち込み、日本の生産指数を下押しするリスクには注意が必要だ。
- 2024年7月5日に公表予定の5月分の景気動向指数は先行CIが前月差+0.6ptの111.5、一致CIが同+1.2ptの116.4と予想する。予測値に基づく、5月の基調判断は機械的に「下方への局面変化」に据え置かれる。

図表1：鉱工業指数の概況（季節調整済み前月比、%）

	2023年			2024年				5月	6月	7月
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月			
鉱工業生産	+1.2	▲0.6	+1.2	▲6.7	▲0.6	+4.4	▲0.9	+2.8		
コンセンサス								+2.0		
DIR予想								+1.8		
生産予測調査									▲4.8	+3.6
補正值(最頻値)									▲6.0	
出荷	+0.3	▲0.8	+1.6	▲7.5	▲0.7	+4.7	▲0.4	+3.5		
在庫	+0.0	+0.0	▲0.9	▲1.7	+0.6	+1.0	▲0.2	+1.1		
在庫率	▲0.2	+1.5	▲2.3	+2.6	▲5.6	+7.6	▲0.7	▲0.9		

(注) コンセンサスはBloomberg。

(出所) Bloomberg、経済産業省統計より大和総研作成

【生産】工場稼働再開を背景に自動車工業が回復

2024年5月の生産指数は前月比+2.8%と、コンセンサス（同+2.0%、Bloomberg 調査）を上回り2カ月ぶりに上昇した。経済産業省は基調判断を「一進一退ながら弱含み」に据え置いた。

生産指数を業種別に見ると、15業種中13業種が前月から上昇した。自動車工業（前月比+18.1%）が工場稼働再開の影響で上昇し、全体を押し上げた。普通乗用車（同+18.7%）や駆動伝導・操縦装置部品（同+19.2%）、軽乗用車（同+48.5%）など、幅広い自動車関連品目が増産となった。ダイハツ工業は認証不正問題を受けて一部工場の稼働を停止していたが、5月7日より国内の全工場稼働を再開した。ダイハツ工業の5月の国内生産は前年比▲17.3%と、4月（同▲69.0%）からマイナス幅が縮小している¹。電気・情報通信機械工業（前月比+5.1%）でも、自動車用電気照明器具（同+23.6%）などの自動車関連品目が押し上げ要因となった。

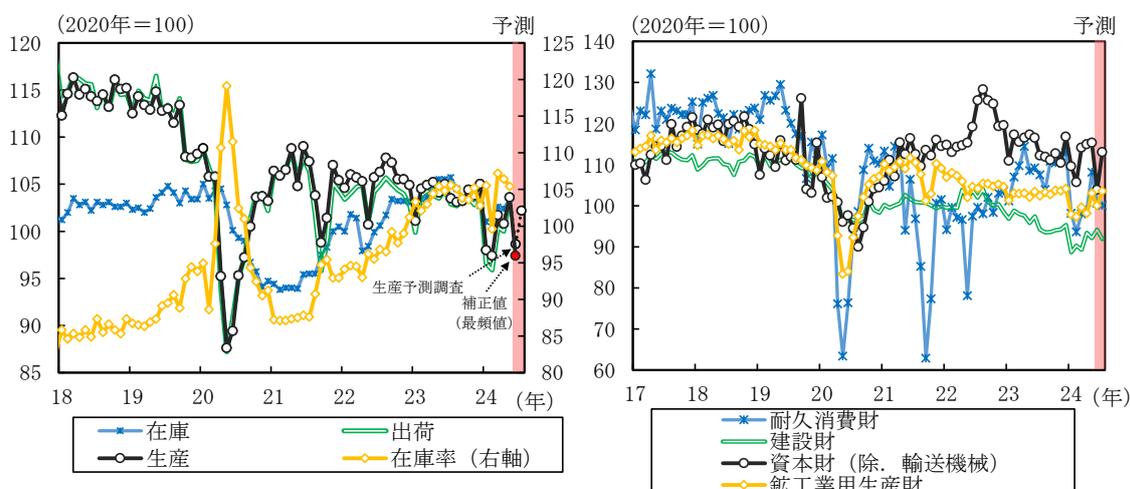
他方で、生産用機械工業（前月比▲6.9%）は3カ月ぶりに低下した。ウエイトの大きい半導体製造装置（同▲23.9%）の減産が押し下げ要因だ。4月（同+36.1%）の大幅増産を背景に、一部で反動減が表れた可能性がある。その他の半導体関連品目を見ると、モス型IC（メモリ）（同+2.9%）は高水準を維持しており、シリコンサイクル（世界半導体市場に見られる循環）の回復を背景とした半導体関連財の需要は堅調とみられる。

財別では、生産財（前月比+4.7%）や耐久消費財（同+9.2%）、非耐久消費財（同+1.0%）、資本財（除. 輸送機械）（同+0.3%）は上昇した一方で、建設財（同▲1.4%）が低下した。

【出荷・在庫】出荷指数は2カ月ぶりに上昇

5月の出荷指数は前月比+3.5%と2カ月ぶりに上昇した。業種別では、自動車工業など15業種中11業種が上昇した。財別では生産財や耐久消費財、非耐久消費財、設備投資動向を示す資本財（除. 輸送機械）が上昇した。在庫指数は同+1.1%、在庫率指数は同▲0.9%となった。

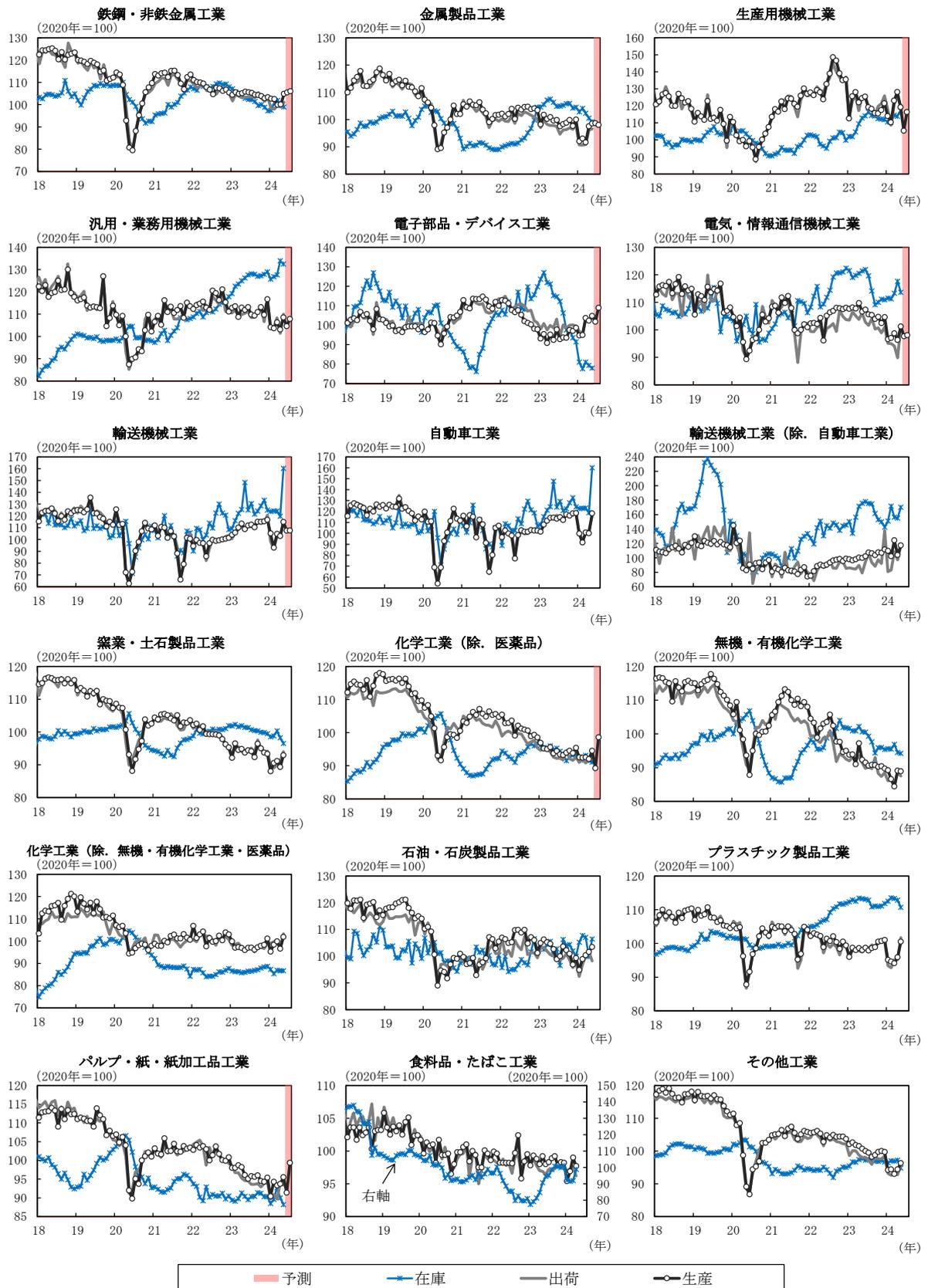
図表2：鉱工業の生産・出荷・在庫（左）と財別の生産（右）



（注）生産指数の予測値（赤色）は、製造工業生産予測指数の補正值。その他シャドウ部分の値は、製造工業生産予測調査による。
（出所）経済産業省統計より大和総研作成

¹ ダイハツ工業「[2024年4月 生産・販売・輸出実績](#)」（2024年5月30日）、「[2024年5月 生産・販売・輸出実績](#)」（2024年6月27日）

図表3：業種別 生産・出荷・在庫の推移



(注1) 生産指数の予測値は、製造工業生産予測調査。化学工業(除. 医薬品)の予測数値は、化学工業全体の予測数値を使用。

(注2) 食料品・たばこ工業は速報では公表されないため直近値は前月の確報値。

(出所) 経済産業省統計より大和総研作成

【先行き】生産指数は非常に緩やかに上昇

先行きの生産指数は、非常に緩やかな上昇基調を辿るとみている。生産体制の正常化で自動車の挽回生産が見込まれるが、認証不正問題などの影響が完全に剥落するまでは緩やかなペースにとどまるだろう。また、シリコンサイクルの回復局面入りで、半導体関連財の生産増加も押し上げ要因となる。ただし、輸出管理規制の強化によって、中国での半導体関連財の販売額が落ち込み、日本の生産指数を下押しするリスクには注意が必要だ。

ダイハツ工業は、認証不正問題を受けて一部工場の稼働を停止していたが、5月7日より国内全工場の稼働を再開した。生産体制はおおむね正常化しており、今後は受注残を解消するための挽回生産が生産指数を押し上げるだろう。7月17日に2車種の実生産再開が予定されており、これをもってすべての現行車種の実生産が再開することとなる。また、トヨタ自動車では、部品の不具合などを理由に4月4日より一部車種について生産を停止していたが、6月17日より生産が再開されたため、影響は徐々に剥落するとみられる。

6月3日に国土交通省が一部自動車メーカーによる新たな認証不正を発表したが、影響は軽微なものにとどまるとみている。報道によると、トヨタ自動車とマツダが同月6日から生産を停止した5車種の年間生産台数は計14.5万台程度（2023年度）という²。これは乗用車の生産台数の2%程度にとどまるうえに、不正車種以外では挽回生産の継続が見込まれることから、乗用車全体で見れば生産の増加が続くだろう。ただし、生産停止が想定以上に長引く可能性には注意が必要だ。トヨタ自動車は、生産停止中の3車種について、7月末まで停止を継続すると明らかにしており、8月以降の再開時期は未定だ³。マツダも生産再開時期を明らかにしていない。

トヨタ自動車は6月20日より、部品の欠品で国内5工場計6ラインの実生産を停止した。同月24日には全ラインで稼働再開したものの、生産指数を一定程度下押しする可能性がある。

シリコンサイクルの回復局面入りは生産指数の押し上げ要因だ。日本半導体製造装置協会によれば、5月の半導体製造装置販売高（3カ月平均）は前年比+27.0%と増加基調にあり、今後半導体製造装置をはじめとした半導体関連財の需要回復が見込まれる。

製造工業生産予測調査によると、2024年6月の生産指数は前月比▲4.8%（生産指数全体の計画のバイアスを補正した試算値（最頻値）は同▲6.0%）と見込まれている。業種別では11業種中9業種が低下する見込みだ。生産用機械工業（同▲11.6%）では半導体製造装置の実生産減が見込まれるほか、輸送機械工業（同▲6.4%）でも減産の予定だ。5月の自動車工業の在庫が同+34.7%と大幅に積み上がっていることから、在庫調整で生産が抑制されるものとみられる。

7月の生産は前月比+3.6%となる見込みだ。業種別では、11業種中8業種が上昇するとみられている。生産用機械工業（同+10.4%）や化学工業（同+10.5%）などが上昇する見通しだ。

² 6月6日付のNHK報道（<https://www3.nhk.or.jp/news/html/20240606/k10014472151000.html>）によれば、トヨタ自動車で生産停止となった3車種（カローラ フィールダー、カローラ アクシオ、ヤリス クロス）の2023年度の実生産台数は13万台程度、マツダで対象になった2車種（ロードスターRF、MAZDA2）は同1.5万台程度だった。

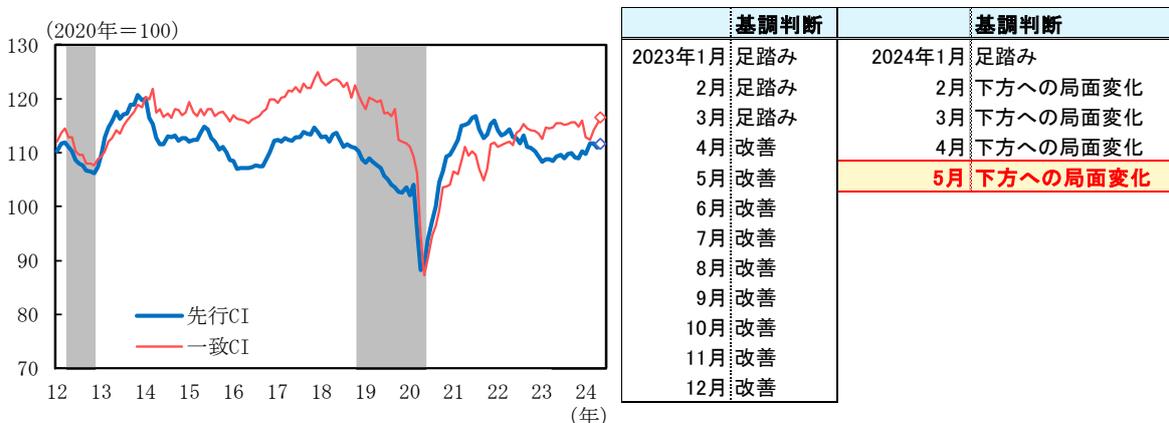
³ 日本経済新聞「[トヨタ、不正3車種7月末まで生産停止 新車発売も延期](#)」（2024年6月14日）

【5 月景気動向指数】先行 CI・一致 CI ともに上昇の見込み

鉱工業指数の結果を受け、2024 年 7 月 5 日に公表予定の 5 月分の景気動向指数は先行 CI が前月差+0.6pt の 111.5、一致 CI が同+1.2pt の 116.4 と予想する（**図表 4**）。先行 CI では構成指標のうち、鉱工業用生産財在庫率指数や最終需要財在庫率指数、中小企業売上げ見通し DI)、などが改善した。また一致 CI では構成指標のうち、耐久消費財出荷指数や鉱工業用生産財出荷指数、生産指数（鉱工業）、などが改善した。この予測値に基づくと、5 月の基調判断は機械的に「下方への局面変化」に据え置かれる。

先行きの経済は緩やかな改善基調が続くと見ている。2024 年 1-3 月期の実質 GDP（2 次速報）は前期比年率▲1.8%と、1 次速報値（同▲2.0%）からマイナス幅がわずかに縮小した⁴。認証不正問題に伴う一部自動車メーカーの大幅減産などが GDP 成長率を押し下げたものの、個人消費には回復の兆しが見られる。4-6 月期の実質 GDP 成長率は、自動車の増産や家計の所得環境の改善などもあってプラス成長に転じるとみている。一部自動車メーカーにおける認証不正問題の影響は引き続き注視する必要があるものの、生産体制の正常化を受けて受注残を解消するための挽回生産が見込まれる。また、春闘賃上げ率の大幅な引き上げや定額減税が家計の所得環境を改善させ、個人消費の回復を後押しするとみている。

図表 4：景気動向指数（先行 CI、一致 CI）と基調判断の推移



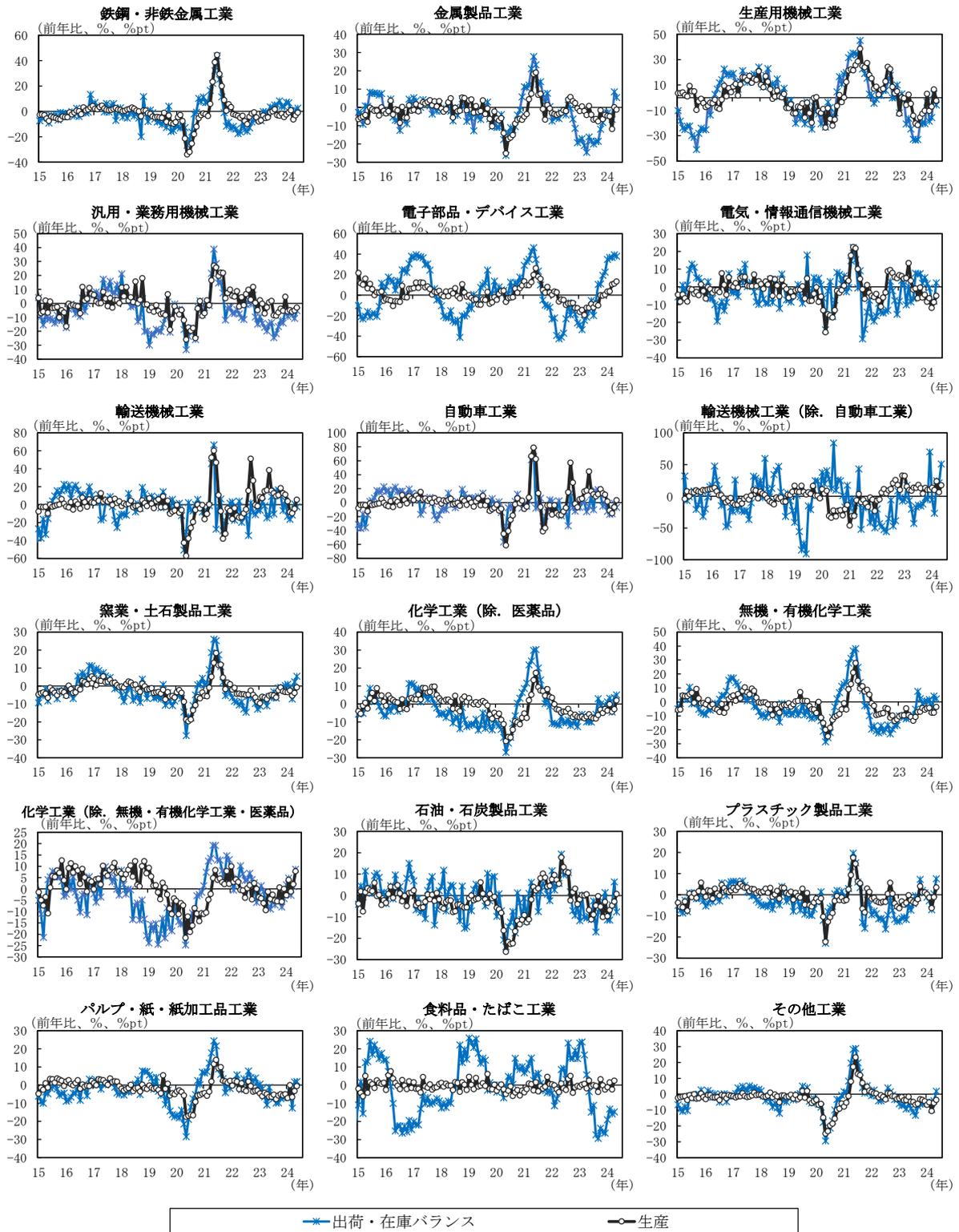
（注）左図の直近は大和総研による予測値。シャドーは景気後退期。

右図の2023年4月以前の基調判断は2015年基準による。2024年5月は大和総研予想。

（出所）内閣府統計より大和総研作成

⁴ 詳細は、神田慶司・岸川和馬「[2024 年 1-3 月期 GDP（2 次速報）](#)」（大和総研レポート、2024 年 6 月 10 日）を参照。

業種別 出荷・在庫バランスと生産



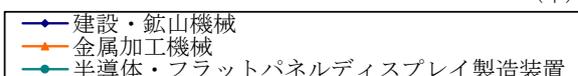
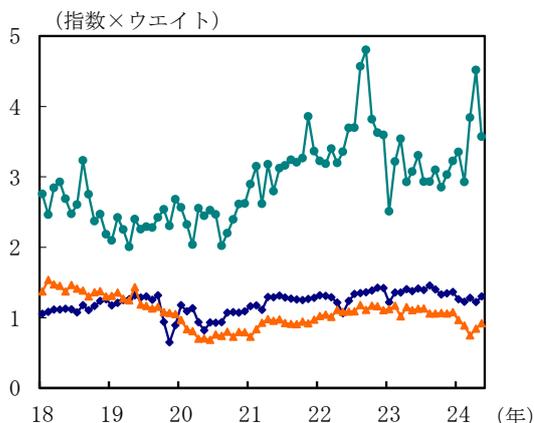
(注1) 出荷・在庫バランス＝出荷前年比－在庫前年比。

(注2) 食料品・たばこ工業は速報では公表されないため直近値は前月の確報値。

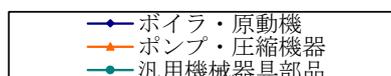
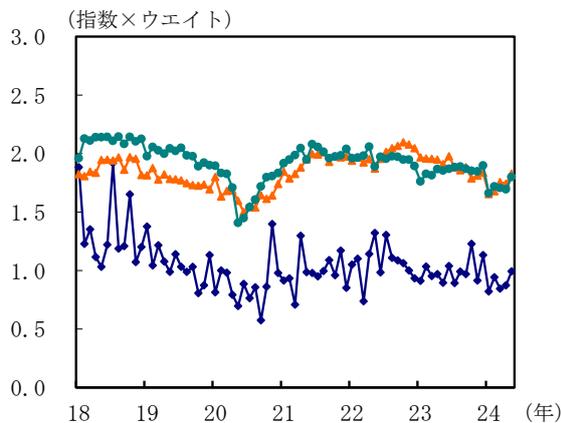
(出所) 経済産業省統計より大和総研作成

主要産業の生産動向(季節調整値)

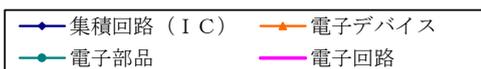
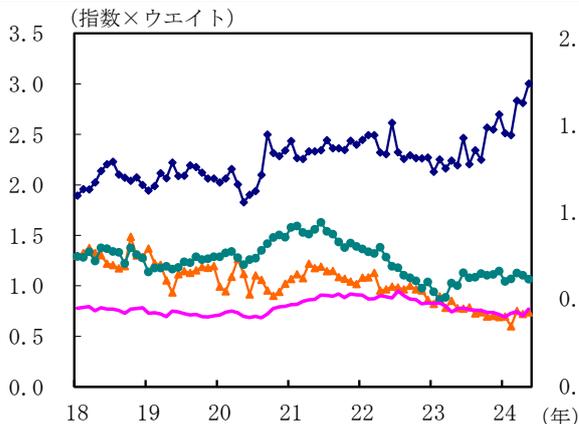
生産用機械



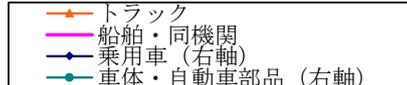
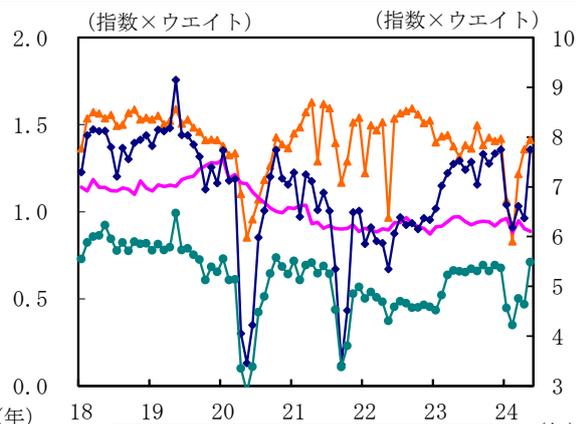
汎用・業務用機械



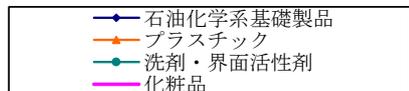
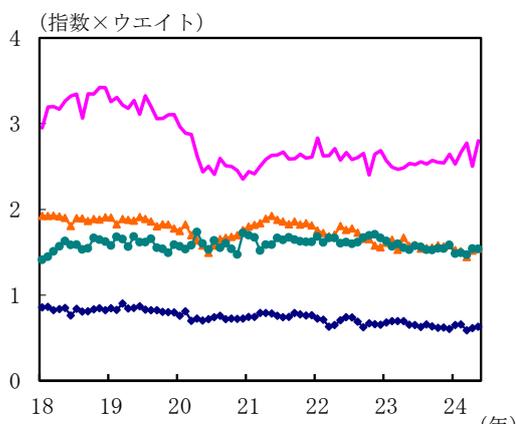
電子部品・デバイス



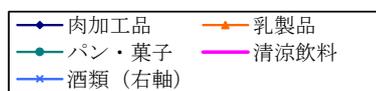
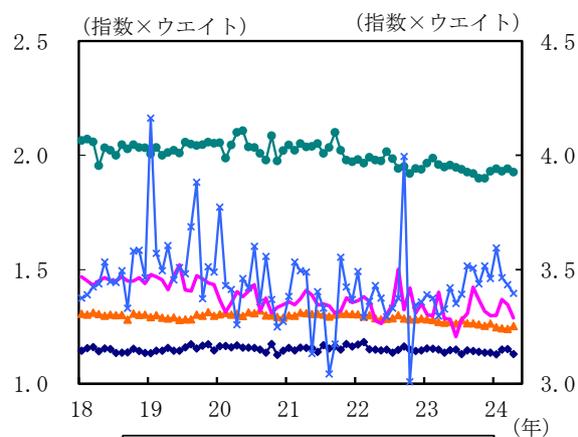
輸送機械



化学



食品・たばこ工業



(注) 食品・たばこ工業は速報では公表されないため、直近値は前月の確報値。

(出所) 経済産業省統計より大和総研作成